

アレルギー舌下免疫療法に対する小児科医の認知：千葉県内小児科医へのアンケート調査

研究分担者 下条 直樹 千葉大学大学院医学研究院小児病態学教授
研究協力者 山本 健 千葉大学大学院医学研究院小児病態学

研究要旨

千葉県小児科医会会員医師（総数 450 名）に郵送でスギ舌下免疫療法に関するアンケートを用いて意識調査を行い、以下の結果を得た。

1. 207 名の会員から解析可能なアンケートが回収された。このうち 90.8%が小児科で、経験年数が 21 年以上の医師が 86.5%であった。
2. 勤務先がクリニックである医師は 64.3%であり、実地医家が 2/3 を占めていた。
3. 63.8%の医師が現行のスギ花粉症の薬物療法に患者は満足していないと考えていた。
4. 83.6%はアレルギー専門医の資格を持っていなかったが、スギ舌下免疫療法には 62.3%の医師が関心があると回答した。70%の医師はスギ舌下免疫療法を自ら実施することを考えていた。すなわち、スギ舌下免疫療法はアレルギー非専門の一般小児科医にも支持されて臨床で行われる可能性が高いと考えられた。
5. 舌下免疫療法に関心を持つ医師の半数以上が、非専門医が講習を受ければ実施して良いと回答した。すべての施行予定の医師は耳鼻科、アレルギー科などの専門医による講習等を十分に受ける必要があると思われる。また、患者に対しても舌下免疫療法についての情報提供を行うことが本治療法の安全で有効な施行のために望まれる。

A. 研究目的

アレルギー性鼻炎の罹患率は近年増加傾向にあり、およそ全国民の1/3が罹患していると推測されている。このようにアレルギー性鼻炎は国民病といていいほど罹患率が高いのみでなく発症年齢も低年齢化しており、学校生活や学業にも支障を来すことが少なくない。薬物療法は有効であるが対症療法に過ぎず、根本的治療法である免疫療法の普及が望まれてきた。しかしながら、わが国で従来から行われている皮下注射によるダニやスギの免疫療法は痛みや煩雑さが妨げとなって小児のアレルギー性鼻炎の治療法としては広く行われてはいない。近年、欧米を中心に舌下免疫療法が保険診療として行われており、わが国でも近々吸入アレルギーに対する舌下免疫療法

が認可される予定である。しかしながら、アレルギー性鼻炎を診療している第一線の小児科医の舌下免疫療法に対する認知はまだ高い可能性がある。そこで、本研究では、実地医家を中心とする小児科医のアレルギー舌下免疫療法に対する意識調査を目的とした。

B. 研究方法

千葉県小児科医会会員医師（総数450名）に郵送でアンケートを送付し調査を行った。調査、質問項目は、以下の9つである。専門科、勤務先、医師経験年数、アレルギー専門医資格の有無、現在のスギ花粉症の薬物治療に対する患者満足度、皮下注射による免疫療法の経験の有無、スギ舌下免疫療法への関心、舌下免疫療法の実施への対応、免疫療法を実施

する医師の資格について、である。

(倫理面への配慮)

本研究はアンケート調査のみであり、また匿名であり、個人情報の保護に関しても問題ないものと考えられる。

C. 研究結果

207名の会員から解析可能なアンケートが回収された。このうち、

- 1) 90.8%が小児科、10.1%が内科であった(重複も含む)。(図1)
- 2) 勤務先はクリニックが64.3%で、病院が32.8%、その他が2.9%であり、実地医家が2/3を占めていた。(図2)
- 3) 経験年数では21年以上が86.5%であり、11年から20年以下が11.1%であり、以前に皮下注免疫療法の経験がある医師も多いと考えられた。(図3)
- 4) 83.6%は非アレルギー専門医の資格を持っていなかった。(図4)
- 5) 63.8%の医師が現行の薬物療法に患者は満足していないと考えていた。(図5)
- 6) スギ舌下免疫療法に対しては62.3%の医師が関心がある、11.6%が存在は知ってはいるが関心がない、24.2%が知らないと回答した。(図6)
- 7) 舌下免疫療法を自ら行う希望のない(あるいは不明な)医師はおよそ30%であった。一方で、18.5%がぜひ実施したい、51.2%が場合によっては自分での実施を考えると回答していた。すなわち、およそ70%の医師は自ら実施することを考えていた。(図7)
- 8) 舌下免疫療法に関心を持つ医師(129名)の52.7%が、非専門医でも講習を受ければ実施して良いと回答した。一方で31%は、専門医が行うべきと回答した。(図8)

D. 考察

千葉県小児科医会会員医師(小児科医がおよそ9割)に対するアンケート調査の結果から、およそ7割の医師はスギ舌下免疫療法に関心があり、実地医家の非アレルギー専門医にもスギ舌下免疫療法は支持されて施行される可能性が高いと思われる。

舌下免疫療法は皮下注射法に比較して安全性

ははるかに高いと考えられるが、その適応、副作用などを適切に理解した上での施行が望ましい。そのためには耳鼻科、アレルギー科などの専門医による講習等を十分に行う必要があると思われる。また、患者に対しても舌下免疫療法についての情報提供を行うことが本治療法の安全で有効な施行のために望まれる。

E. 結論

千葉県小児科医会会員医師に対するアンケート調査の結果、スギ舌下免疫療法はアレルギーを専門としない一般小児科医の多くが施行を希望する可能性が高いことが明らかとなった。今後、舌下免疫療法の適正な施行の点からも一般医師ならびに患者への情報提供が必要と思われる。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他

図 1

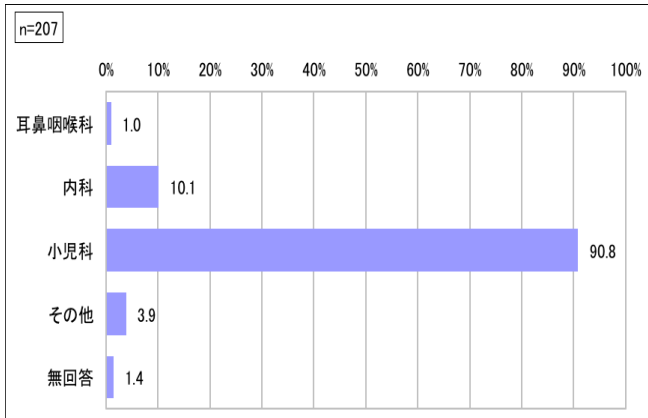


図 4

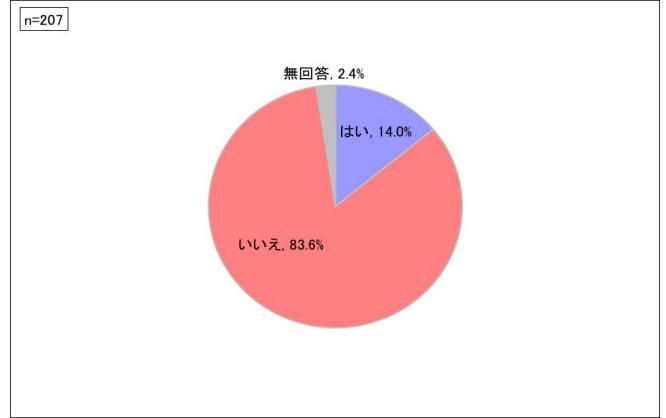


図 2

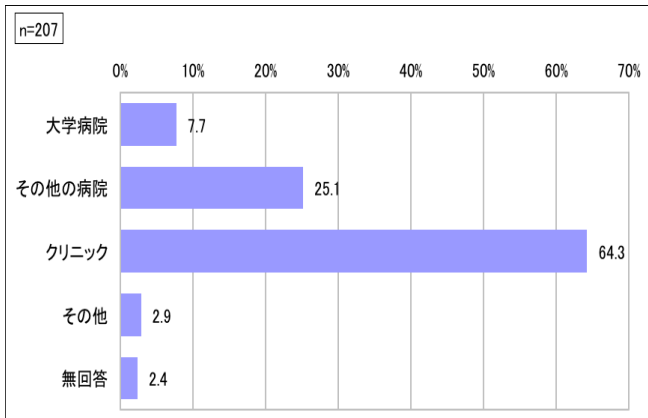


図 5

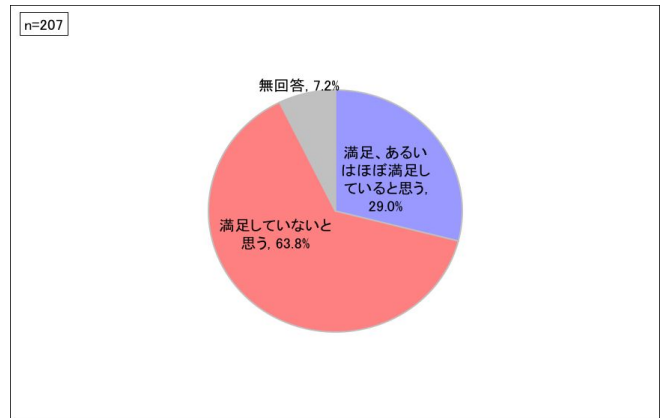


図 3

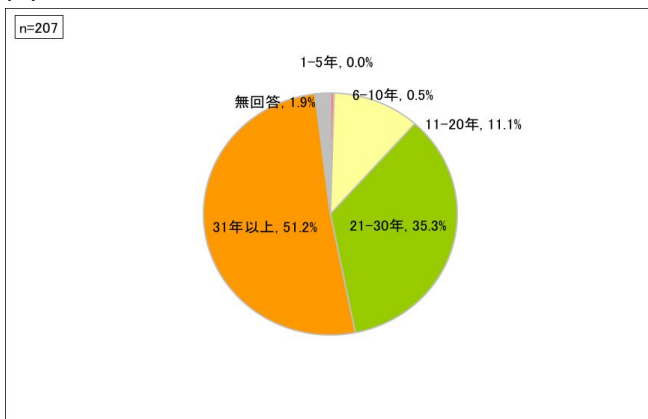


図 6

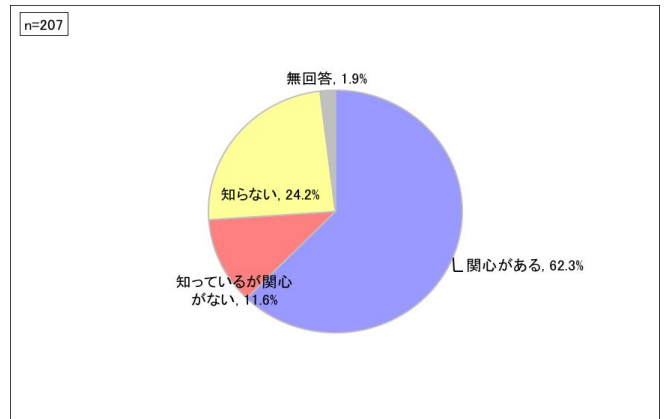


図 7

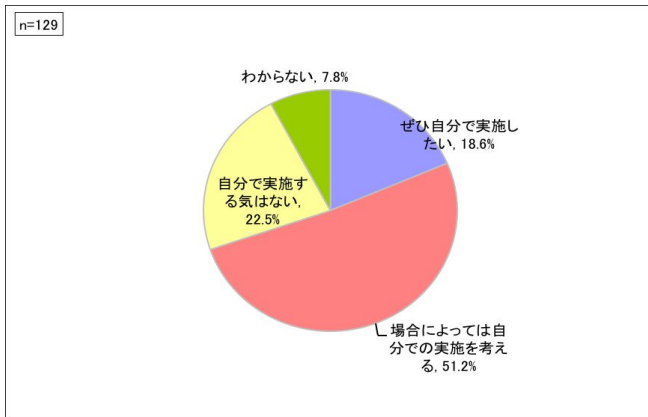


図 8

